

# アジアカレッジ

## —日本と韓国のかけはし—

代表者 森真輝人（理学B 2年）  
構成員 平野和（人文B 2年）横林志織（医学B 2年）中尾嘉宏（理学B 2年）  
渡邊圭祐（理学B 2年）

### 1. 2月のアジアカレッジの活動

最終報告書では月間報告書では取り扱うことのできなかつた2月のアジアカレッジの活動に関して日毎に詳しく書くこととする。

#### 1-1 2月21日（土）下関港

久しぶりに全員が集まり、下関港から釜山港に向けて出発した。船旅の経験がない者も多く、船に乗るまでの手続きや税関申告書の記入といった些細なことも勉強となった。



図1 下関港から釜山港に向けて出発（2/21）

#### 1-2 2月22日（日）釜山

2月18日から20日が韓国の旧正月であったため、この日は日本人のみでの行動となった。グループに分かれて南浦洞やチャガルチ市場、西面といった釜山の大きな観光地を散策した。日本とはまた違う活気あふれる様子はとてもおもしろいものである。言葉の壁があるため、言葉以外のコミュニケーションツールを使って意思疎通する必要があることを参加者達は実感することができた。

#### 1-3 2月23日（月）釜山

韓日文化交流協会に参加者全員が集まり、オリエンテーションを行った。日程説明や、日本と韓国で異なる生活様式についての注意や班分けの説明が行われた。その後班ごとに分かれてアイスブレイキングをした。離れている間の近況報告や趣味の話などをしながら、アジカレ期間中に使用する横断幕の製作をした。共同作業をしていくうちに久しぶりに会ったことによる緊張もほぐれ、次第にぎこちなさはなくなっていった。その後はホームステイをするため各家庭へ向かい、解散となった。ホームステイ先では各家庭からのおもてなしを受け、それぞれで楽しい時間を過ごした。



図2 釜山の大きな観光地を散策 (2/22)



図3 韓日文化交流協会にてオリエンテーション (2/23)

#### 1-4 2月24日(火) 釜山

朝鮮通信使歴史館の見学を行った。分かりやすくまとめられた3Dの映像資料を見ることで、日本と韓国をつなぐ役割を果たした朝鮮通信使について学ぶことができた。展示物もその時代実際に使われていたものや、昔の本を分かりやすく解説したパネルなど、非常に充実していた。その後は甘川文化村に行った。甘川文化村は街中がアートというカラフルな村である。人々の生活の中にアートがうまく溶け込んでいることを感じながら散策した。夜はチムジルバンという韓国の健康パークのような場所に泊まった。オンドルという韓国ならではの床暖房があるため、快適に過ごせた。

#### 1-5 2月25日(水) 大邱

チムジルバンを出発して大邱韓日友好館へと向かった。ここでは茶道の体験をした。日本の茶道とはまた違った韓国式の茶道である。先生にお茶を入れてもらい、みんなでお茶を楽しんだ。次は大邱薬令市記念館に行った。大邱には昔から漢方薬が集まる大きな市場がある。質の良い漢方薬と医師が集まっていたため、何日もかけて大邱を訪れる患者もいたそうだ。



図4 街中がアートな甘川文化村 (2/24)



図5 大邱韓日友好館にて茶道の体験 (2/25)

#### 1-6 2月26日(木) 慶州

この日は朝食を食べてすぐに慶州のナザレ園を訪問した。ナザレ園は様々な事情で日本に帰れなくなった日本人妻達がみんなで生活をしている施設である。ナザレ園で暮らしているおばあさん達の平均年齢は90歳を超えている。何十年も韓国で暮らしているが日本語を忘れてはおらず、日本語でお話することができた。日本の民謡を一緒に歌うなどして、楽しい時間を過ごした。その後はキョチョン村というところに行き、韓国染物の体験をした。それぞれに色や模様が異なるオリジナルのハンカチを作ることができた。

#### 1-7 2月27日(金) 釜山

韓国最終日は南浦洞組と西面組に分かれてショッピングをした。地元の人だからこそ知っているようなお店に連れて行ってもらったり、韓国で流行しているスイーツを食べたりと、韓国の今を知ることができた。みんな市場での店員さんとのやり取りも慣れてきたので、初日よりスムーズに買い物が出ていた。5日間を一緒に過ごしてたくさんのお話を話し、一層仲を深めたからこそ別れの瞬間はとてもさみしいものである。釜山港では参加者同士抱き合い、涙を流す姿が見られた。別れを惜しみ、また会う約束をしてお別れした。



図6 キョチョン村にて韓国染物の体験 (2/26)



図7 釜山港より出発 (2/27)

## 2. 最後に

多くの人の支えのおかげで1年間を通じたアジアカレッジ2014の活動は終了した。山口県，慶尚南道の学生という小さな規模での交流ではあるが，このような活動を続けることが日韓の友好関係を築くうえで大きな役割を果たすのだと感じる。韓国の学生からは「もっと日本語の勉強を頑張る」「日本についてもっと知りたくなった」という声が聞かれた。日本の学生も新しいことを経験し，韓国の学生から刺激を受けることができた。これからも連絡を取り合い，互いの国を訪れたりしながら互いを理解し，高めあっていきたいと思う。